

第25回



矢巾町民劇場の第25回公演が2月12、13日の両日、田園ホールで行われました。昨年は感染症対策で中止となったため、2年ぶりの公演。過去作品の番外編として2本立ての上演で、来場した延べ302人が手作りの舞台を楽しみました。

矢巾町民劇場

大切なのは礼儀や思いやりだ
生きる姿勢は誰かが見ている

閻魔様の部屋

生まれ変わった若者
矢巾町史より、
(平成30年第22回公演)

極

楽か、あるいは地獄か。4年前の第22回公演でも描かれ、重要な場面となった「閻魔大王の間」。ここに、亡くなったおばあさん・田中千代が来る。
閻魔大王は、生前の行いの良さから、極楽行きを決定。だが、夫の正一が病になった際に何もできなかったことなどを理由に、かたくなに地獄行き

を嘆願する千代だった。閻魔大王たちが、正一などを説明するも、千代は地獄行きを願う最大の理由を説明。生前の大雨の日、自宅を訪れた母親と赤子に食料を分けてやれず、見殺しにしたことを話す。
そのとき地蔵が現れ、千代が生前に愛をもって人と接してきた日々を思い出させる。そして、大雨の日に家を訪れた母子がその後、外出していた正一に助けられ、幸せに暮らしていることを知る。



今回の公演には出演者、裏方を含むスタッフ約70人が参加。新型コロナウイルス感染症の感染状況により開催自体が見通せず準備期間が限られた中、関係者の尽力により通常の半分、約3カ月間で作り上げました。
来場した吉田智枝子さんは「今回の物語の基となる以前の公演も観ていたので面白かった。2年ぶりに町民劇をみられて良かった」と話しました。

親子だからこそ

ちゃんと言わないと

伝わらないことも

あるんだよ



産直さっこい

さあどっこい!

Lifeライフ
「素晴らしき世界」より
(平成26年第18回公演)

歌

声が響く、にぎやかな産直が帰ってきた。第18回公演から7年が過ぎた「産直さっこい」。そこで働くおばあさんのシズやミワをはじめとした組合員を中心に、普段の日常が描かれた。体調の変化や家族の転勤など、登場人物を取り巻く状況もさまざま変化があり、YHB音楽祭

に参加した頃のような、歌を練習したり披露したりする場がなくなっていた。ある日、シズとミワは常連の夫婦・豊と礼子について、子育てで矢巾に帰り同居中の娘・優里奈と礼子との不仲を知る。
そんな時、地元の子どもたちからシズやミワ、そして合唱を趣味としていた礼子に、YHB音楽祭への出演の誘いがあった。そこで披露する曲「ツバメ」の歌詞から、礼子と優里奈が親子としての関わり方を見つめ直すことになる。

公演を終えて



閻魔様の部屋
千代 役
金田一純香さん
(高田3区)

演劇はキャスト、スタッフがいて、そしてお客さんに来ていただけて初めて成り立つもの。2年ぶりの公演で、改めてそれを実感した。



産直さっこい
さあどっこい!
シズ 役
室岡静子さん
(室岡)

主役を務めてはいたが、この舞台は全員が主役だった。みんなで作りに上げることができたと思う。



1・2部に出演
本多倅祐くん
(煙山小3年)

今回が2回目の参加。コロナ禍で厳しい中だけど、去年、町民劇場がなかったら、その分の思いを表現できた。

